



No. 48 [平成28年3月25日]  
岡山県総合教育センター  
〒716-1241  
加賀郡吉備中央町吉川7545-11  
TEL(代) (0866) 56-9101  
(特別支援教育部) (0866) 56-9106  
(特別支援教育部相談専用電話)  
TEL (0866) 56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

## 通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究（アセスメントシート分析パッケージの開発）

2月21日（日）に開催した岡山県総合教育センター教育研究発表大会において、標記テーマで特別支援教育部が今年度取り組み、開発した「アセスメントシート分析パッケージ」について発表しました。本号では、そのときに発表した内容を中心に紹介します。

### ＜背景＞

平成24年7月に中央教育審議会から出された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の中で、「基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子どもが授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的視点であり、そのための環境整備が必要である」と述べられています。このことから、通常の学級においても、特別支援教育の観点を取り入れ、特別な支援を必要とする児童生徒を含め、全ての児童生徒にとって学びやすい授業づくりを行うことが求められています。

こうした動向の中で、平成25年4月に岡山県教育委員会が策定した「第2次岡山県特別支援教育推進プラン」では、通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりの取り組みが示されました。さらに、平成27年3月には、教育庁特別支援教育課から「通常学級の特別支援教育ガイド」が出され、本県が考える「特別支援教育の観点を取り入れた通常学級の授業づくり」について、「特別支援教育と通常学級の教科教育のアプローチを融合し、①授業のユニバーサルデザインの考え方をもとに、すべての子どもがわかる・できる喜びを実感できることをめざした教科の指導の工夫と、②実態把握に基づいた個別の配慮のダブルスタンダード」という方向性が示されました。

しかし、特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりについて、見通しをもたせることや視覚的支援を取り入れること、教室の前面の刺激を少なくすることなどができていればよいといった捉え違いをしている場合があると聞きます。このような方法だけを取り入れることの落とし穴として、愛媛大学の花熊暁教授は、「特別支援教育研究」12月号（2011、東洋館出版社）特集「保存版通常の学級の授業ユニバーサルデザイン」の中の提言「学校全体で取り組む授業ユニバーサルデザインー子ども一人ひとりを大切にする授業をめざしてー」において、「授業のユニバーサルデザイン化を視覚的手がかりの使用やワークシート、ヒントカードの使用といった『形』の取り入れだけで考えてしまうと、目の前にいる子どもから始まる『生きた授業』から離れてしまう危険がある」と述べています。

支援は子どもの実態から導き出される必要があります。そのため、岡山県総合教育センターの先行研究において子どもの学習に関わる認知面の特性を八つの観点から測定し、把握した困難さを軽減する支援を行うための実態把握ツールとして「アセスメントシート」を独自に作成しました。

## <アセスメントシートについて>

アセスメントシートは、次に示す八つの観点それぞれに対応した問題で構成されています。小学校低学年（1～3年）用、高学年（4～6年）用、中学校用の3種類があり、それらの問題を実施した結果をもとに、八つのそれぞれの観点から実態を理解するとともに、複数の観点に関連付けることで更に詳細な実態を把握することができます。

例えば、A児は、日頃から教師の話の聞いているように見えますが、説明をした後に「どうすればいいの？」と尋ねてきたり、指示したとおりの行動がとれなかったりするなどの気になる行動がみられていました。そこで、A児のアセスメントシートの結果をみると、標準得点40点以下の問題が④と⑧の二つありました（アセスメントシートでは、各問題ごとの素点を標準得点に換算し40点以下である場合、赤色表示し、その問題で見ている観点の力に何らかの困難さがあると考えています）。A児には④聴覚

### アセスメントシート 八つの観点

①ことばを見つけよう	【音読・黙読】
②書き写そう	【視写】
③見た数を答えよう	【視覚的な短期記憶】
④説明を聞いて答えよう	【聴覚的な言語理解】
⑤何の絵でしょう	【他者理解・状況理解】
⑥形を写そう	【図形の認知】
⑦ひらがなを見つけよう	【注意・集中】
⑧聞いた数を答えよう	【聴覚的な短期記憶】

的な言語理解と⑧聴覚的な短期記憶に困難さがあることを関連付けて考えると、A児には聞く力に弱さがあると考えられます。そのため、担任は、話す内容を具体的で分かりやすいものにしたり、視覚的な手がかりを添えて説明したりするなどの配慮をするようにしたところ、A児の気になる行動が少なくなり、状態が改善されました。

ところが、アセスメントシートを実施した学校に当センター指導主事が訪問し、アセスメントシートの結果について担任等と検討する際に、担任等から「複数の観点に関連付けて考えていなかった。観点の関連づけは難しい。」などという話を聞くことが多くありました。通常の学級の担任が自分だけで複数の観点に関連させて指導・支援を導き出すには、アセスメントシートの結果を的確に理解（解釈）できにくい面があり、学校現場で十分に活用しきれていない状況もありました。

そこで、今年度の研究において、アセスメントシートを学校現場でより有効に活用できるようにするため、アセスメントシートの結果から学級集団及び個の学習上の困難とそれに対応した指導・支援の方法を一括して提供する「アセスメントシート分析パッケージ」（以下、「分析パッケージ」といいます）を開発することを目的に掲げて取り組みました。

## <アセスメントシートの活用に関わる課題>

分析パッケージの開発に当たっては、アセスメントシートの結果から複数の観点に関連付けて指導・支援を導き出す過程における課題を明確にするために、質問紙調査を実施しました。（質問紙調査に関する詳細については、当センターWebページに掲載する研究紀要をご参照ください。）

その結果、次の二つの課題が挙がってきました。その一つは「複数の観点に関連付けることの困難さ」であり、もう一つは「複数の観点に関連付けた後、指導・支援を導き出すことの困難さ」でした。前者については、約半数の教員が複数の観点に関連付けられていない現状がありました。「どの観点とどの観点に関連性があるのか分かりにくい」「複数の観点に関連付けてみたが、それが適切であるか判断がしづらい」などの回答があり、複数の観点に関連付けることに困難さがあることが明らかになりました。後者については、複数の観点に関連付けることはできたが、そこから指導・支援を導き出すことに困難さを感じている割合が大きいことが分かりました。その理由として「どんな指導や支援の方法があるのか知識がない」、「指導・支援を考えてみたが、効果がある方法なのか自信がない」などの回答もあり、具体的な指導・支援を導き出すことの困難さが明らかになりました。そこで、これらの二つの課題等への対応を図り、アセスメントシートの結果を理解し、活用しやすくするための分析パッケージの開発を行うこととしました。

## ＜分析パッケージの具体＞

今回の分析パッケージ開発に当たって、まず、図1に示す「学級集団理解シート」を見て、学級集団及び個の特徴を導き出すための手順を作成し示すことにしました。そして、その手順は、「学級集団理解シート」の画面の左下のタブに示すことにし、手順①～④に沿って、確認すべきポイントを事前にチェックしたり、例示された観点の関連性から自分の学級の様子に合った項目を選択したりすることによって、学級集団や児童生徒一人一人の特徴を把握することができるようにしました。



図1 「学級集団理解シート」

手順①～④についてもう少し説明をすると、手順①では、「学級集団理解シート」を見る前に、アセスメントシートが測ろうとする力を再度確認できるようにしています。手順②では、「学級集団理解シート」の下側の棒グラフから、学級集団の傾向を理解するための手順を示しています。手順③では、「学級集団理解シート」でアセスメントシートの結果を見るときに、確認すべきポイントを事前にチェックしておくことで、一人一人の結果を理解しやすくする手順を示しています。手順④では、アセスメントシートの結果を学校全体で共通理解し、活用していく手順を示しています。

次に、アセスメントシートの活用に関わる課題の一つである「複数の観点に関連付けることの困難さ」への対応については、八つの観点の中で、相互に関連性があると認められる観点の組合せについて検討し、強い関連性があると考えられる18通りの組合せを導き出すとともに、図2に示す「個別理解シート」に表示する際の標準得点が40点以下の八つの各観点と観点の組み合わせの優先順位を決めました。もう一つの課題である「複数の観点に関連付けた後、指導・支援を導き出すことの困難さ」への対応については、「個別理解シート」に設けたコメント欄に標準得点が40点以下の観点がある場合に推測される学習上の困難さとそれに対する指導・支援の例を自動表示するようにしました。

こうして開発した今回の分析パッケージの活用により、従来に比べてより的確に実態把握ができ、授業改善に役立てやすくなったと考えていますので、各学校での活用をよろしく願います。

なお、アセスメントシートは、子どもたちの学習に関わる認知面の特性を把握するツールですが、WISCなどの個別式知能検査や発達検査のように詳細な把握ができるものではありません。そのため、アセスメントシートを活用する際には、分析パッケージによる把握とともに、これまでどおり教員による授業の行動観察を併せて検討し、総合的に実態把握をすることが必要になります。この点には十分ご留意願います。

手順①～④についてもう少し説明をすると、手順①では、「学級集団理解シート」を見る前に、アセスメントシートが測ろうとする力を再度確認できるようにしています。手順②では、「学級集団理解シート」の下側の棒グラフから、学級集団の傾向を理解するための手順を示しています。手順③では、「学級集団理解シート」でアセスメントシートの結果を見るときに、確認すべきポイントを事前にチェック

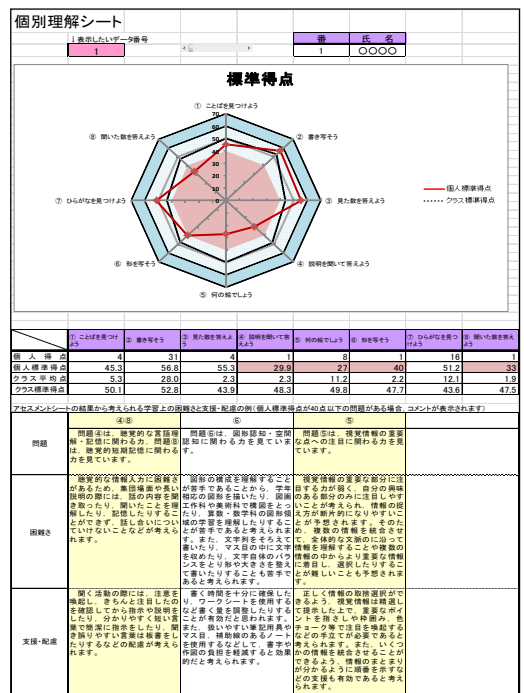


図2 「個別理解シート」

今後、当センター特別支援教育部では、分析パッケージを活用した学校のデータを蓄積するとともに、その効果や課題等についての意見や感想をお聞きしながら、通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに役立つ分析パッケージとして活用されるように学校現場のニーズに応じた必要な改良を行っていきたいと思います。

## <分析パッケージ送付の申込みについて>

今回、開発した分析パッケージについて、その活用を希望する学校には、次の手続きによりお申込みいただいた上で、送付しています。ご希望のある学校は、当センター特別支援教育部まで電話でご連絡ください。  
【電話番号 0866-56-9106】

### ○すでにアセスメントシートをお持ちの学校へ

今回の分析パッケージの送付を希望する場合は、改めて管理職の方から当センター特別支援教育部長へ電話でお申込みください。

### ○アセスメントシートのことについて知りたい学校へ

アセスメントシートのサンプル版を送付しますので、電話でご連絡ください。

### ○初めてアセスメントシートを活用したい学校へ

アセスメントシートを実施したい旨を電話でご連絡ください。その際、次の「アセスメントシートを実施するにあたっての留意事項」について、センターから説明します。その上で、管理職の了解のもと、アセスメントシートを実施することが決まりましたら、管理職の方から当センター特別支援教育部長へ電話でお申込みください。

### 「アセスメントシートを実施するにあたっての留意事項」

#### ①児童生徒の障害の有無を判断するものではありません

アセスメントシートは、その結果を授業における指導・支援にどのように役立てるかを目的に作成したものです。アセスメントシートから得られた情報に加え、普段からの行動観察等から得られる情報を総合的にアセスメントして、より適切な指導・支援を導き出していくという趣旨を理解された上で、活用してください。

#### ②保護者へアセスメントシートを実施することを事前に連絡してください

アセスメントシートには、知能検査等を参考にして作成した問題があり、保護者の方に実施に関する誤解を招く恐れがあります。そのため当センターでは、学年便り等を利用して事前の説明を行うことを推奨しています。また、先生方が教育相談などで保護者の方に対して説明や情報提供をする場合には、次の点に留意してください。

- ・アセスメントシートの結果のみを伝えるのではなく、日々の行動観察などと併せて総合的に児童生徒の実態を捉えて説明する。
- ・アセスメントシートの検査問題や結果の情報は、厳重に管理し、保護者や本人に対して「個別理解シート」の結果を説明する場合は、口頭による説明とし、提示や配付をしないようにする。

#### ③小学校第1学年には早い時期での実施は避けてください

小学校第1学年の標準値データの集計分析は、二学期後半から三学期のものをもとにしています。また、アセスメントシートは、平仮名の読み書きができることを前提に作成しています。そのため、一年生の一学期など早い時期は、読み書きのスピードなどに個人差が大きく、正しい測定値が出ない可能性があります。問題を確認いただいて実施時期については、よくご検討ください。



#### ④音声CD（同封）を使用して実施してください

アセスメントシートを実施する教員によって結果に差が生じないようにするため、アセスメントシートと同封の音声CDを必ず使用するようになしてください。

#### ○その他、アセスメントシートに関する研修や結果の見立てについて希望に応じます

アセスメントシートの説明や、アセスメントシート結果の見立て等についてのご依頼についても、当センター特別支援教育部へ電話でご連絡ください。

また、当センターが行った通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりやアセスメントシートに関する研究の次に示す研究成果物については、当センターWebページに掲載（ダウンロード可）していますので、ご活用ください。その他、教育研究発表大会当日の分科会の様子を撮影・編集したVTRをeラーニングに掲載しますので、ご覧ください。

- ・ブックレット「通常の学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり」（平成21年3月）  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h20/08project01.pdf>
- ・研究紀要「小・中学校の通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究－児童生徒を理解するためのアセスメントに焦点を当てて－」（平成23年2月）  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/study/h22/10-03.pdf>
- ・ブックレット「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり－アセスメントシートを活用して－」（平成23年2月）  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/study/h22/10-03booklet.pdf>
- ・研究紀要「小・中学校の通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究Ⅱ－アセスメントシートの検証を中心に－」（平成25年2月）  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/study/12-06.pdf>
- ・ブックレット「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりⅡ－児童生徒の実態把握を大切にした授業づくり－」（平成25年2月）  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/study/12-06booklet.pdf>
- ・研究紀要「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究（アセスメントシート分析パッケージの開発）」（平成28年2月）  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h27/15-05.pdf>

（特別支援教育部 林 栄昭）